

南小たば風通信 2018

平成30年12月3日(月) 第28号

みなさん、学校教育指導 お疲れ様でした！

南小フェスティバルが近づく中、授業者の三上先生、庄山早苗先生、庄山有希先生、授業づくりにかかわった低プロの先生方、悩みながらも略案を作ってくださった先生方、印刷・帳合などで陰ながら支えてくださった教頭先生。温かく見守ってくださった校長先生。みなさんお疲れさまでした。

1. 今回の事後研のまとめ

＜授業者から（3名分）＞

- ・いつもよりもがんばっていた。（やればできることが感じられた。）
- ・発表にも余裕がもてた流れだった。
- ・声の大きさなどに注意させたが、うまくいかない部分もあった。
- ・音読カードで読み込みを続けている。
- ・時数が少ないので効果的な読みになるように計画した。
- ・TTとしてうまく機能している。
- ・泣くなどの場面もあったので適切な支援があればよかった。
- ・付箋に理由がしっかり書けていた。
- ・TTとして余裕をもち、広く見られるとさらによかった。（もう少し動けてもよかった。）

＜参観者から＞

○成果（よかったところ）

- ・明るい雰囲気での授業が進められていた。
- ・必要感をもたせるような例示がよかった。
- ・3名のチームワークがよかった。
- ・あらすじの確認など、テンポがよく進められていた。
- ・子どもたちが一生懸命に取り組む姿が見られた。
- ・ゴールの提示がよかった。
- ・これまでの単元での学習が生かされていた。

●課題

- ・説明が1年生には少々長かったのでは。
- ・発表の仕方（どこを向いて話をするのか。）
- ・互いの考えの比較ができたのが振り返りの場面のみにってしまったのでは。（発表の場面で〇〇くんと◇◇くんの考えが似ているね。）
- ・対話的とはどこの部分なのか。（交流の仕方の確認が必要）
- ・実物投影機の効果的な活用を。（無理に使わなくてもよいのでは）
- ・「紹介し合う」の目標を評価するため、認め合う場面をどこに入れるか。
- ・板書を生かしながらまとめてもよかったのでは。

2. 助言

<三浦主査より>

- 先生方の授業がよくなり、さらに授業を見る視点もよくなっている。
- 「し合う」と「しよう」の違いの共通理解を図る必要がある。
- 「し合う」の場合は、話し手だけでなく、聞き手のポイントも必要になる。
※話すこと・聞くことの指導事項や、読むことの指導内容にも記載されているので確認が必要です。
- 今回の授業であれば、「しよう」で十分である。
- 並行読書の位置付けがしっかりしており、読書コーナーも準備されていて指導計画に沿う準備がなされている。
- 1年生の鉛筆の持ち方がしっかりしていてよい。
- 今後も言語環境を整えていってほしい。(特に敬語など)

<教頭先生より>

- 低プロで苦勞して指導案を作ることができ、よい授業になった。
- 「対話的な力」を求める授業が多いが、「なぜ発表させるのか」など発達段階に応じた身につけなければならない力を明確にしていく必要がある。(決して高いレベルのものを要求するものではない。)

<校長先生より>

- 授業の視点を明確にすること。
- 指導事項を確認して進めること。
- スタンドで困ることがないように、低学年からきちんと身につけさせること。
- イスの座り方(立腰)も大切な学習。

研究部としてのまとめ

(1) の柱

- 単元の指導計画に言語活動が明確に位置付けられており、指導計画にあわせた環境も整備されている。また、単元のゴールも子どもたちが理解して進められており、「主体的・対話的で深い学び」に実現に向かう授業となっていた。

(2) の柱

- 「対話的な学び」を深めるための授業であれば、1単位時間のどこにどのような話し合う場面を位置づけるのかを考える必要がある。「し合う」と「しよう」の違いや発達段階に応じた指導事項を改めて確認して授業を組み立てる必要がある。

3. 今後の予定

- 12月 7日(金) 高学年ブロック 指導案検討 (6年生 授業研究)
- 12月11日(火) 板書交流会6年生
- 12月19日(水) 5時間目 6年生 授業研究 ※放課後⇒事後研
高学年ブロックの先生方、よろしくお願いします!